

# まちづくり構想（案）の検討について

## ～ 再生に向けた具体的な取組み項目の検討 ～

### 1. 「第1回木曾山崎団地地区まちづくり検討会」における意見の整理

#### (1) センター機能に関する事

- スーパーにはある程度の人々がいるが、商店会には人が少ないという印象があった。センター内の広場では、木陰で休んでいる人も散見されたが、閑散としている印象があった。
- 工夫を加えれば、もっと賑わいや人々が集まる空間になると思う。
- 以前センターを訪れた際に、人が少なく、センター地区ではシャッターが多く閉まっていた印象がある。

#### (2) 学校跡地に関する事

- 周辺の地区においても高齢化が進んでいるため、あまり遠くに出向くことはできないので、旧本町田中学校・旧本町田西小学校に、様々な活動(カルチャー教室・コミュニケーション施設など)を行える施設を設置してほしい。
- 七国山小学校周辺では、町田山崎第二住宅で若い世帯、子供が増えている。近くに旧忠生第六小学校があることから、子どもが遊べるようなスペースや、子供と高齢者との交流に活用できるとよい。

#### (3) 住環境に関する事

- 団地地区内は、緑が多く、恵まれている環境であることが感じられた。
- 個々の居住者に聞いてみると、現状の住居が住みにくいという意見があった。
- 家賃と町田駅までの交通費の合計額で、町田駅周辺を借りることができることから、団地よりも利便性の高い町田駅周辺を選択することが考えられる。したがって、人の流入には、良好な住環境とともに、家賃設定が重要である。
- 空き家が多いと不安を感じる住民もいるので、治安の面からも何らかの対策が必要である。
- 木曾団地自治会では、防災倉庫の設置等、防犯・防災対策を自主的に行っているが、本来は東京都住宅供給公社側が行うべき。

- 町田木曾住宅ト号棟の分譲住宅では、建替えか耐震改修を行うかの住宅の改善を検討している。周辺の団地と同様に、住民の高齢化が問題となり、大きな投資が難しく、なかなか議論が進まない状況にある。

#### (4) コミュニティ活動に関する事

- 高齢者のための場や子供のための場など、利用者を特定されるような場を作るのではなく、いろいろな場でいろいろな人が集まる空間をつくり、それらが連携するような場を作り上げることが重要であると考え。これらの場を通じて多世代の交流や賑わいを作り、コミュニケーションを活性化していくことが必要である。
- お祭りなどのイベントが開催される日は、団地内外から信じられないほど多くの人が集まる。また、多くのサークル活動(囲碁など)も行われており、自治会報誌でも紹介している。これらの活動を維持し、広げていくことが重要である。
- 新しい居住者が入居してきた際、コミュニケーションをとりたいと思っても、個人情報の関係で管理会社からは、名前も教えてもらえないため、コミュニケーションがとりにくい。

#### (5) 子育て、高齢者の支援等に関する事

- 町田山崎第二住宅周辺では、若い人が増加しており、最近では団地内の草刈りの活動を通じて、多世代の交流が促進されている。
- 空き家を、子育ての支援施設やふれあいサロン等に使うとよい。

## 2. 今回の検討テーマについて

まちづくりの目標、方向性  
(昨年度の検討結果より)

### 【まちづくりの目標】

新しい魅力と人の和を生む団地再生のまちづくり

### 【まちづくりの方向性】

#### ①安心して暮らせるまちづくり

・防災・防犯体制を強化すると同時に、住戸の改善、医療・福祉・介護等の充実を図る。

#### ②楽しく交流できるまちづくり

・多様な世代やライフスタイルの人達が、気軽に集い、交流することができる場を作り、コミュニティを再生する。

#### ③利便性の高いまちづくり

・すべての居住者にとって暮らしやすい生活サービスや公共交通を充実させる。

#### ④周辺から訪れたい魅力のあるまちづくり

・地区外から訪れたい、住みたい、歩きたいような団地の魅力を作る。

#### ⑤環境を考えたまちづくり

・緑があふれ、敷地にゆとりのある住環境を生かしつつ、省エネルギーや省資源対策へも配慮した団地を目指す。

まちづくりの目標を実現するために  
必要な機能・取組み

現在の木曾山崎団地地区は、(1)住宅、(2)センター地区、(3)学校跡地のエリアに分類できます。

#### (1) 住宅（住環境・周辺緑地も含む）について

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

#### (2) センター地区について

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

#### (3) 学校跡地について(※)

①多様な世代が安心して豊かな暮らしを続けるために必要なこと。

○

○

②周辺の方も住みたい住宅団地を形成するために必要なこと。

○

○

※昨年度の検討では、①防災主要拠点、②子育て支援拠点、③健康増進関連拠点、④文化関連拠点、⑤教育関連拠点が提案されました。

### 3. 現在の木曾山崎団地地区

